

令和2年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

未来の社会をリードする人材を育成することで地域の誇りとなる学校をめざす

- 1 自立心と進取の気概を育成する
- 2 フェアなルール感覚を育成する
- 3 多文化共生・国際教育を推進する
- 4 科学的・論理的に考え行動する人材を育成する

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

- (1) 自分の考えをまとめたり、発表したりする機会の多い授業づくりを推進する。
 - ア 説明・発表・討論等を通じて、「思考力・判断力・表現力等」を育成するような「言語活動の展開」をめざす。
 - イ グループ活動、ペアワークなどを取り入れ、学習意欲を高めることに尽力する。
 - ウ 令和2年度入試から始まる新しい時代に備え、積極的に研修に努め、新たな指導法と評価法を完成させる。
- (2) 「総合的な学習の時間」に展開している「課題研究」を充実させ、「総合的な探究の時間」の目標達成をめざす。
- (3) これまでの教育活動の実績に基づき、実践的な英語教育と多文化共生・国際教育を一層推進する。
 - ア GTEC を全員受験（1・2年）とし、英検等の受験を勧め、4技能バランスのよい英語力の育成をめざす。
 - イ 全員参加の海外修学旅行の継続、英語圏およびアジア圏への研修の充実、海外からの訪問者の受け入れを従来通り積極的に行う。
- (4) この数年間に整備した ICT や教育産業のコンテンツを活用するより質の高い授業と講習を実施する。
- (5) 希望進路達成率（第2希望も含めて）85%以上をめざす（H29：73%、H30：67%、R1：74.3%）。
- (6) 令和2年度入試から実施される、「大学入学共通テスト」を見据え、新大学入試制度に関する情報収集と研究を行い、日々の授業に反映させる。
 - ア 「主体的・対話的で深い学び」をめざし、基礎的・基本的知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育みをめざす。
 - イ 中教審答申には、「パフォーマンス評価」や「ポートフォリオ評価」が例示され、達成度の基準を示す「ルーブリック」が紹介されている。ペーパーテストによらないこのような新しい評価を徐々に生徒に示していく。

2 日常の中で自律し、社会の中で自立できる人材の育成

- (1) クラブ活動加入率の増加をめざし、各クラブが成果を出せるよう努力する。積極的にクラブ支援を行う。 ※部活動加入率 80%をめざす。
(H29：73.4%、H30：75.4%、R1：77.7%)
- (2) ユネスコスクールとして国際交流、地域交流そして社会貢献を推進する。「人権」、「国際理解（国際協力）」、「ESD（持続可能な開発のための教育）」等による「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けた取組みなどを通じ、グローバルな視野をもった人材を育成する。
- (3) 生徒会活動の活発化を図り、全生徒の自律心と自立心を高める。
- (4) キャリア・パスポートを活用しながら、生徒一人ひとりが自らの学びや生活を見直し、振り返ることができるようにする。

3 生徒の希望をかなえる学校づくり

- (1) 日々の学校生活が楽しく充実したものであり、キャリア教育によって将来が展望できる、満足度の高い学校生活を送れるようにする。
- (2) 遅刻・服装指導等の継続、清潔できれいな学校作り、メディアリテラシー教育を進める。自宅学習時間の確保を考える。
- (3) 情報発信を重要視する。
- (4) 生徒が自主的に行動できるノークラブデーを有効活用するとともに、教職員の働き方改革も推進する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○授業において「考えをまとめたり発表する機会がある」という項目についての肯定的評価が目標値を上回っており、授業の工夫が生徒に届いていると言える。今後さらに工夫を重ねてまいりたい。</p> <p>○『総合的な探究の時間』は役に立つと思う』の項目の肯定的評価が70%を超え、目標値を上回った。現在、新しいカリキュラムを検討中であるが、より深化・充実したものとしていきたい。</p> <p>△国際教育等への肯定的評価が、国際教養科では90%を上回ったものの、普通科では70%台と目標に届かなかった。生徒にとり、より有用感のあるプログラムや取組みをめざしてまいりたい。</p> <p>△生徒会活動については目標値に届いていない。コロナ禍の影響で、生徒会が主体となる行事の多くが中止や縮小したことが原因と考えられる。厳しい条件の中でも生徒たちが活躍できるあり方を模索していきたい。</p> <p>△「学校へ行くのが楽しい」という項目では目標値に届いていない。コロナ禍のため、年度当初の臨時休業や学校再開後の行事の中止・縮小などが影響しているものと考えられる。学校生活に対して、生徒の動機づけを高める方策を考えてまいりたい。</p> <p>◇経年で見ると、「確かな学力の育成」に関わる項目の肯定的評価は概ね上昇傾向となっている。より充実をめざした取組みを進めていきたい。</p> <p>◇「学校へ行くのが楽しい」や「学校行事の工夫」などについての項目の肯定的評価が昨年度に比較し下降している。厳しい状況の中で生徒の動機づけにつながる方策を考えていく。</p>	<p>第1回（書面による開催：8/4までに意見聴取）</p> <p>◇「海外修学旅行や英語圏・アジア圏への研修の充実など」について、現在の新型コロナウイルス感染症拡大の状況の中、今年度のみ変更してもよいのではないかと。</p> <p>◇学校現場と家庭状況の把握、②その対応と対策や取組み、③生徒の変化にカウンセリングなどの対応を今後に生かしてほしい。</p> <p>◇改訂された「進路指導の手引き」ではより具体的な目標をもって日々を送り、3年間の成長を自分でデザインしやすい内容になっていた。</p> <p>◇いち早く入学式や海外研修を中止し安心安全に対応した取組みは非常に評価される。</p> <p>◇教育クラウドサービスやYouTubeチャンネルの開設、ICT教育推進・企画室を設立したことは、時代の変化に素早く対応した柔軟で迅速な学校経営である。</p> <p>第2回（書面による開催：12/28までに意見聴取）</p> <p>◇感染拡大防止のため「瞬間体温計」「サーモグラフィー」をいち早く導入され、安心安全のため行事に活用されている。</p> <p>◇国際交流では「オンライン交流」で新しい時代を切り拓いている。</p> <p>◇「広報プロジェクトチーム」を設立。パンフ、ビデオ、HR等を活用して学校紹介を継続されたことが素晴らしい。</p> <p>◇広報面で、国際文化科への再編についてより具体的な内容の発信が必要。より具体的なカリキュラム内容などを早々に発信をしてはどうか。</p> <p>第3回（令和3年2月20日開催）</p> <p>◇オンライン国際交流や課題の幅の広いSDGsをとりあげることで可能性が広がる。学校の強みとしていけるのではないかと。</p> <p>◇保護者が不安にならないような情報発信を。些細な毎日の日常でもHPなどから発信することで反響がある。工事の完成や国際交流などよいことの発信を。</p> <p>◇遅刻数が減少していることはよいこと。</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価	
1 確かな学力の育成	(1) 授業改革 「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざし、自分の考えをまとめたり、発表したりする機会が多い授業づくりを推進する。	(1) ア 説明・発表・討論等を盛り込んだ授業を行う イ グループ活動、ペアワークなどを取り入れ、学習意欲を高める。 ウ 新学習指導要領の実施と新しい入試を見据えたカリキュラムの作成 エ 授業において生徒の思考力や表現力を促すさまざまな工夫を行う。	(1) ※ () 内は R 元年度 ア 全教科で1回以上校内公開授業を行う。 イ 学校教育自己診断「考えをまとめたり発表する機会がある」75%以上(74.5%) ウ カリキュラム検討委員会を設置し新カリキュラムの完成をめざす エ 授業アンケート「6 授業では自ら考え表現(記述、発表、作品、パフォーマンスなど)する活動が多く取り入れられている」の肯定的評価80%以上を維持。	(1) ア 14回の公開授業を実施(△) イ 普通:79.5%、国際:87.4% (◎) ウ 新カリキュラムはほぼ完成(○) エ 「授業では自ら考え表現する活動が多く取り入れられている」の肯定的評価84.7%(○)	
	(2) 課題研究	(2) ア 「総合的な探究の時間」のシラバスを再構築する。「学校経営推進費」を活用して課題研究に即した教育環境整備を行う。 イ 「総合的な探究の時間」の目標を見据えて「課題研究」に取り組む。	(2) ア 再構築したシラバスを文書化する。 イ 学校教育自己診断「『総合的な探究の時間』は役に立つと思う」70%以上(新規)。	(2) ア 「探究」の3年間の計画原案を完成したがシラバスまで至らず(△) イ 普通:77.3%、国際:72.4% (◎)	
	(3) 英語教育と多文化共生・国際教育	(3) ア GTECの全員受験(1・2年)を推進する。 イ 英検等の受験を奨励する。 ウ 海外修学旅行、英語圏への生徒派遣・アジア圏との交流、海外からの訪問受入れ事業を実施。	(3) ア CEFR B1以上20%、A2 80% イ 英語科でGTECや英検などの受験の分析ペーパーを作成し共有する。 ウ 学校教育自己診断「異なる文化や考え方を大切に」70%以上(新規)。	(3) ア B1以上4.2%、A2 72.3%(△) イ GTEC分析ペーパーを共有することができた(○) ウ 普通:76.6%、国際:95.9% (◎)	
	(4) ICT等の活用	(4) ア ICTや教育産業のコンテンツを活用したより質の高い授業と講習を実施する。 イ 課題研究で生徒にICT機器を活用させる。	(4) ア 効果的なICTの活用等の実践を収集し、校内において共有する。 イ 生徒全員が課題研究でICTを活用する。	(4) ア 教育クラウドサービスを活用した取組みを推進(○) イ 課題研究で活用(◎)	(4) ア 教育クラウドサービスを活用した取組みを推進(○) イ 課題研究で活用(◎)
	(5) 希望進路達成率	(5) 希望進路達成率(第2希望含む)を向上させる。	(5) 希望進路達成率(第2希望含む)70%以上を維持。(74.3%)	(5) 希望進路達成率(第2希望含む)80.8% (◎)	
	(6) 新学習指導要領等に対応した授業や評価の実施	(6) ア 思考力を問う新しい大学入試を研究する。 イ ペーパーテスト以外の評価を導入する。	(6) ア、イ 各教科において、新しい大学入試や評価方法を研究し、それを共有化する。	(6) ア、イ リサーチした内容を3年生中心に授業や説明会で提示(○)	
2 日常の中で自律し、社会の中で自立できる人材の育成	(1) クラブ活動加入率の増加	(1) クラブ活動加入率増加をめざし、各クラブが成果を出せるよう活性化委員会や後援会が支援。年度途中でも入部しやすい環境づくりに取り組む。	(1) クラブ加入率78%(77.7%)	(1) クラブ加入率73.4%(○) コロナ禍の中で各部健闘した。	
	(2) ユネスコスクールの活動	(2) ア ユネスコスクールとして、国内外に情報発信を行い、その取組みを校内の共有財産とする。 イ 泉佐野市が主催する様々な地域イベントにユネスコスクールとして関わる。	(2) ア 学校教育自己診断で国際教育等への肯定感80%以上維持(88.4%)。 イ 全国規模、地域規模の発表会やコンテストに1回以上参加。	(2) ア 普通:76.6%、国際:95.9% (○) イ ONE WORLD FESTIVAL for Youthにオンライン参加(◎)	
	(3) 生徒会活動の活発化	(3) ア 限られた条件を最大限に生かして生徒会活動を活発化させる。 イ 近隣支援学校や地域等との交流などに取り組めるようにする。	(3) ア、イ 学校教育自己診断「生徒会活動が活発である」85%(85.7%)	(3) ア、イ 普通:71.2%、国際:66.6% (△)	
	(4) キャリア・パスポートの活用	(4) キャリア・パスポートを導入する。	(4) キャリア・パスポートの様式を構築、導入してキャリア教育を充実する。	(4) キャリア・パスポート様式と運用について体制を構築中(△)	
3 生徒の希望をかかなる学校づくり	(1) 満足度の高い学校生活	(1) 従来からの学校生活に対する高い満足度をより向上させる。	(1) 学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」85%をめざす。(82.2%)	(1) 普通:82.3%、国際:77.9% (△)	
	(2) 遅刻・服装指導等の継続、清潔できれいな学校作り、メディアリテラシー教育推進、自宅学習時間の確保	(2) ア 遅刻指導を継続し、さらに時間を守る意識を高め、生徒の生活習慣を向上させる。 イ 1年生徒が出身中学校訪問を含め、中学生から「あこがられる」高校生としてのあり方を追求する。(ボランティアや出前授業など) ウ メディアリテラシー教育(SNSに関する指導)を計画的に行う。	(2) ア 年間総遅刻数2,000件以内を維持する。(1,875件) イ 1年生が出身中学校訪問を行う。 ウ 各学期の終業式にSNS活用に関する生徒指導課からの講話を行うとともに、外部講師による講演を実施する。	(2) ア 1,612件 (◎) イ 感染症予防のため実施せず。(一) ウ 講話は実施。コロナ禍のため外部講師は招聘できなかったが、府作成リーフレットを活用してSNSに関する指導の充実を図った。(○)	
	(3) 情報発信を重要視	(3) ア 全員で広報する体制をさらに強化する。 イ 広報スタイルをさらにブラッシュアップし、広報媒体(チラシ・リーフレット、WEB)に継続的に工夫を加える。 ウ 文書配布、ホームページ、メールの活用促進	(3) 学校説明会や体験授業の参加者数の目標をのべ1,500人以上とする。(校内1,128人 校外431人)	(3) 感染症予防のため多くの説明会を中止とした。11月に参加者限定で2回開催。その他外部機関主催の説明会に参加。総参加者数668人。 ア、イ 広報PTを中心にリーフレット等を一新して広報に活用。(◎)	
	(4) ノークラブデー活用と働き方改革	(4) ノークラブデーと働き方改革の理解を深め、実践につなぐ。	(4) 校内で啓発を行うとともに教育産業など外部機関と連携し、職員の負担を軽減。月間超過勤務時間80時間以上人数(のべ)を30人以下にする(のべ34人)	(4) 月間超過勤務時間80時間以上人数(のべ)29人。(○)	